

奥書

底本… 鴻山本 対校本…なし

【翻刻】

此五十一ヶ条尤我家之^{*}雖^レ為^ニ秘事^一今貴殿当道御執心其上無^ニ之^一旧友^{キウユウ}候故、不^レ得^{ヤム}止事^ヲ。愚老覺悟仕候処無^ニ一毛之私^一委細に記之進上仕候。努々^{ユメ}不^レ可^レ有^ニ他見^一者矣。

以上下卷六十七丁ヨリ百五丁終迄

* 「雖」を簡略にした文字を右傍記する。

凡謡の一曲ハ尊卑大むねもてあそひとなれり。蓋^シ有^レ故囲碁双六の類ハ敵^{テキ}を招て喜怒にさへらる。獨^リうたひハ我にかなふ。されともしなわかち有を吟する人すくなし。今幸に此書を得たり。童蒙のため録^ム梓^ニ。正本五十一ヶ条の内二十一ヶ条ハ省^レ之者也。

寛文第二八月上浣

一条通新町西へ入町板行

(近藤静乃)